

# 明治大学

〒101-8301  
東京都千代田区神田駿河台1-1  
入試広報事務局  
TEL 03-3696-4139  
https://www.meiji.ac.jp

明治大学は、1881（明治14）年に3人の青年法律家、岸本辰雄、宮城浩蔵、矢代操らによって創設された「明治法律学校」を前身とし、幕末維新の動乱期を生きた彼らが掲げた建学の精神「権利自由」「独立自治」は、グローバル時代においてこそ重要な意味を持つ、現代の人類にとつての「未達の課題」でもあります。

情報ネットワークの進化により、人類は史上初めて、人類全体が抱えるさまざまな課題を「同時代人」として共有する時代を迎えました。そこで大学が問われているのは、難題を共に考え、解決を共に創り出していくための「共創力」にほかなりません。明治大学は、この「人類を前進させる大学」として、たゆまぬ大学改革を推し進めています。



土屋恵一郎学長

## 人類の「共創的未来」に向けて グローバル時代の“未達の課題”と対峙し 新たな学問領域の創造に挑む

**伝統と革新が融合した  
知の拠点となるキャンパス群**

今春、13年連続で志願者数が10万人を超えた明治大学。2020年度入学試験受験生を対象とした明治大学給費奨学金「お・明治奨学金」を新設するなど、大学改革の新しい展開が続いています。こうした中、卒業生も政財界から学術、文化、スポーツまで幅広い分野で活躍し、著名企業への就職率の高さや豊かな人的ネットワークに、社会からの注目がさらに高まっています。

130年以上の伝統を誇る駿河台キャンパスは、わが国屈指の都心型キャンパスとして発展。1998年に完成し高層校舎の先駆けとなったリパティタワーやアカデミー・コモン、グローバルフロントなどが知の一大拠点を形成しています。

文科系6学部の1・2年生が学ぶ和泉キャンパス、理工・農学部が学ぶ生田キャンパス、2013年に開設され、国際日本・総合数理学部が学ぶ中野キャンパスもそれぞれ充実した設備を誇っています。また、地域社会に開かれた学習の場として、「米沢善博記念図書館」「登戸研究所資料館」「阿久悠記念館」など多彩

な施設が付設されています。**文理問わぬ幅広い分野で  
研究を展開  
数学分野では特に顕著な実績**

平成28年度の文部科学省科学研究費助成事業において、明治大学は配分額・採択数とともに過去最高を記録しました。同年度まで集計されていた細目別採択件数上位10機関（過去5年の新規採択の累計数）では16細目でランクインし、特に「数学基礎・応用数学」分野では2年連続で1位となっています。

同分野では、2007年に「先端数理科学インスティテュート（MIMS）」を設置し、2013年には日本初の数学系学部となる総合数理学部を新設。平成28年度には文部科学省による私立大学研究ブランディング事業タイプB（世界展開型）に「Math Knowledge：数理科学する明治大学」モデリングによる現象の解明」が選定されています。「新しい学問領域を創造することが大学の生命力であり、その意味で将来構想として『数理科学する明治大学』を提唱しました。現代は経済学はもちろん、法学や政治学もビッグデータ、人工知能時代の背景の中で動いています。文学研究でも、統計的手法を用いたシエクスピア作品の解明といった試みがなされています。新しい知は、既存学部のイノベーションをも起こす力となるのです」と土屋恵一郎学長は語ります。



在学中から「個」を磨く――新入生M-Navi一日交流会

明治大学では、研究活動の活性化とその質の保証は、大学改革の最重要課題の一つであるとし、学長のもとに「研究・知財戦略機構」を設置。MIMSのほか、「バイオリソロジー国際インスティテュート（MURR）」や「国際武器移転史研究インスティテュート（RIHGA）」、「黒耀石研究センター」などが世界水準の研究を展開しています。また、2018年には将来的な自動運転社会の実現に向けて複合的な課題を解決するための研究を行う「自動運転社会総合研究所」を設立しています。

**海外留学制度の充実に加え  
国際化の新しい展開が続く**

明治大学が展開しているグローバルな取り組みには、大学の国際化の新しい潮流として評価されているものが多数あります。

2016年度には「CLMVの持続可能な都市社会を支える共創的教育システムの創造」が、文部科学省

に「明治大学グローバル・ヴィレッジ」を開設しました。

**柔軟な授業設計で学びを深め  
世界の課題に對峙する**

教育改革面では授業時間割を、1モジュール50分×2セット、計100分、14週の授業に変更。授業の前半は講義、後半は討論などに使うといった柔軟な授業設計が可能になっています。各学期を7週ずつに区分したことで、春休みや夏休みと繋げた短期留学やボランティアも行いやすくなりました。

「これからの教育は単にレスポンス（反応）の速さを競うのではなく、リフレクション（省察）型の教育に転換させたい。教室の中で学びをどう深めるか。そのプロセスを講義の中で作らないと、学生の習熟度も深まらないし、教師も進歩しません。そのためJMOCのシステムを活用し、世界標準の授業を作り上げた知的なフロントを世界へと拡張させ



「大学の世界展開力強化事業」タイプB（ASEAN地域における大学間交流の推進）に採択。CLMV（カンボジア、ラオス、ミャンマー、ベトナム）やASEANの15大学と連携し、専攻分野やキャンパスを超えた取り組みを展開しています。

「戦略的な国際拠点として、タイの名門校シーナカリンワイロート大学内にアセアンセンターを作り出した授業以外にも留学相談やセミナーを開くこともできます。北京大学では明治大学マンガ図

書館の分室を開館しており、協定も締結しています。また、2017年6月には明治大学学生海外トップユニバーシティ留学奨励助成金制度を設立しました（土屋学長）。

海外留学制度も充実しており、留学できる協定校は43カ国・地域254大学（2019年5月末現在）にも上ります。また、UNHCR難民高等教育プログラムのパートナー校として年間2名の学生を受け入れ、難民の大学進学を支援しています。

さらに、学部独自の留学制度やダブルディグリー・デュアルディグリープログラムを実施しているほか、2014年度の文部科学省「スーパーグローバル大学創成支援」タイプB（グローバル化牽引型）に「世界へ！MEJI8000」学生の主体的学びを育み、未来開拓力に優れた人材を育成」が採択。2019年3月にはその一翼を担う施設として、和泉キャンパス隣接地

### (1) 【新設】2020年度入学試験受験生対象 明治大学給費奨学金「お・明治奨学金」 （入学前予約型給費奨学金）

学業優秀でありながらも、経済的に困窮している受験生が、入学時および入学後の経済的負担を軽減できるよう、地域性および経済状況を重視し、入学試験出願前に採用を決定（内定）する奨学金。

- 採用候補者数：1,000名以内
- 給付額：授業料年額1/2相当額（返還不要。入学手続時は入学諸費用から減免）
- 給付期間：4年間（標準修業年限。毎年度継続審査あり）
- 申請期間：2019年10月15日～11月15日
- 申請資格：一般選抜入学試験、大学入試センター試験利用入学試験または全学部統一入学試験により入学する新入生で、前年の世帯収入が所定の家計基準内であり、高等学校等での評定平均値が4.0以上の者。

※詳細は、当該奨学金募集要項（ホームページに掲載）でご確認ください。

### (2) 研究・知財戦略機構

「バイオリソース研究国際インスティテュート（MURR）」では、ヒトとのさまざまな類似性を持つブタをプラットフォームに、次世代の医療技術開発に貢献する生物資源の創出・活用等を推進している。

また、「国際武器移転史研究インスティテュート（RIHGA）」は2018年8月に設置され、総合的歴史研究を通じて、軍縮と軍備管理を取り巻く近現代世界の本質的構造の解明に取り組んでいる。このほか、日本で唯一の黒耀石と人類史の学際的な研究施設である「黒耀石研究センター」などが、特色ある研究拠点としてトップレベルの研究を展開している。

### (3) 明治大学学生海外トップユニバーシティ 留学奨励助成金

優秀な学生に対し、スタンフォード大学やペンシルベニア大学など、世界トップクラスの協定校への留学を促進するための助成金制度。対象は大学指定の海外トップユニバーシティへの留学が決まった本学学生で、1学期あたり最大300万円の助成金を留学費用に充てることができる。

### (4) 明治大学グローバル・ヴィレッジ

2019年3月に和泉キャンパス隣接地にオープンした、約200室規模の国際混住寮。生活の中で留学生と日本人学生の交流が自然に生まれるような設計になっており、ともに生活の場を共有する「学びの場」として位置づけられている。



和泉図書館

